様式３

令和6年度　自己評価表（年度当初）

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

中長期 目標	１ 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 ２ 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 ３ 様々な教育活動をとおして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。 ４ 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。

今年度の 重点目標	１　心身ともに健やかな生徒の育成 ２　生徒の夢や希望が叶えられる学校づくり ３　地域に愛され、信頼される学校づくり ４　専門教育の推進

年　　度　　当　　初				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策
１　心身ともに健やかな生徒の育成	基本的生活習慣の確立とマナーの徹底 【生活部】	・「挨拶」「時間」「身だしなみ」の３点を中心とし、基本的生活習慣の確立を目指している。 ・礼法指導、遅刻指導、整理整頓指導、清掃指導などを通じて、生活習慣を整える習慣を身につけさせたい。 ・「時間」を守ることについては、学科・学年と連携して指導している。（「防げる遅刻」の年間実績は43回で昨年度より10回減っており、総遅刻回数においても昨年度比－18回と減少した。） （令和５年度のいじめ認知件数　０件）	・年間で「防げる遅刻」を24回以下とする。（昨年度は目標を24回以下と設定し、43回） ・校内外で明るく気持ちのよい、心のこもった挨拶ができる。 ・学校アンケート（保護者）の『規律・マナー』項目の「１・２」評価の平均を90%以上とする。（昨年81%、一昨年85%） ・学校アンケート（生徒）の『挨拶』項目の「１・２」評価の平均を90%以上とする。（昨年91%、一昨年91%） ・学校アンケート（生徒）の『学校のきまり』項目の「１・２」評価の平均を90%以上とする。（昨年92%）	・年間の「防げる遅刻」の目標を生徒会執行部との協議の上設定し、生徒主体で取り組めるように働きかけをする ・教職員で率先して「あいさつ」することを共通認識し、また、授業内での「あいさつ」指導も年度当初の重点目標と位置づけ全教職員で取り組む。 ・朝読書を８時３５分にスムーズに始められるよう、５分前の８時３０分着席の指導を生徒会執行部、教職員で実施していく。（生徒会執行部からの声かけ運動、あいさつ運動と連携して教職員の教室での声かけ運動を計画） ・生徒の進路実現、自己実現を見据えた中で、生徒が主体的な行動者となるよう、授業、部活動、学科、生徒会執行部と連携し、教職員の共通認識を大切に指導していく。
	部活動・生徒会活動の奨励 【生徒部】	・今年の4月時点の部活動等加入率 （1年***79***%　2年***81***%　3年***88***%）　***4/30現在*** ・生徒会執行部の学年別構成 （1年0人　2年2人　3年11人） ・執行部会は生徒会行事前にのみ開催 ・学校生活アンケート結果（昨年の7月→12月） 学校行事に楽しく参加協力できた96%→96% 部活動に積極的に取り組んでいる83%→79% ・先生に言われて活動する場面が見られる	・加入率の引き上げ（執行部加入も含めてカウントし、加入率95%以上を目標とする） ・執行部への1,2年生の積極的参加 ・生徒会執行部会およびクラブ運営委員会の定例化＆活性化 ・生徒自身による主体的な体育祭・学校祭等生徒会活動の企画運営	・部活動未加入者への部活動、執行部・学校祭実行委員会への参加呼びかけをする。 ・ＬＨＲ等の学年レクリエーションにおいて執行部員を活用する。 ・会議を定例化し、Googleクラスルームの活用を行う。 ・他校の学校祭の見学や執行部との交流の推進をする。
２　生徒の夢や希望が叶えられる学校づくり	進路指導の充実 【進路部】	・具体的な進路目標を定めているが、実現のための方策や取り組みを計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身についていない。 ・就職希望者支援体制についてはできているが、進学指導に関しては、個別指導による部分が多い。 ・昨年度も求人は多く、就職内定率が１００%であった。	・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育を充実させる。 ・学習指導委員会による進学支援体制を確立させる。 ・年度内に就職内定率を１００%とする。	・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路ＬＨＲ等を実施し、職業観・勤労観の育成に努める。 ・1年次から進学者補習を計画して、大学・短大や医療系専門学校を希望する生徒の学力向上に努める。 ・進路部と教務部・学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 ・１２月から２年生の進路指導に取り組み、生徒が進路実現に向けて行動できるよう計画的に個別に指導を行う。 ・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。 ・４月の面接週間に３年生就職希望者に対する進路部との面談を行い、就職指導の充実をはかる。 ・進学希望者（大学、短大、医療系専門学校）に対する進路部との面談を行い、進学指導の充実をはかる。 ・１年生対象の進路講演会を早期に開催することで、基礎学力の必要性を理解させ、学力向上を目指すよう取り組ませる。 ・倉吉市役所・倉吉商工会議所主催の倉吉市企業説明会に１年生を参加させ、早期に地元企業を知るとともに、地域理解と地元就職の推進を図る。
	勤労観・職業観の育成 （資格・検定の取得やインターンシップ） 【進路部】	・インターンシップは、コロナ禍以前どおりに実施できるようになった。 ・各科で目標としている資格・検定試験に積極的に挑戦している。	・進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムによって、勤労観・職業観が育まれている。 ・多くの生徒が資格取得に向けて、意欲的に挑戦している。	・インターンシップ・ビジネス実習が充実したものになるよう、丁寧な事前・事後指導をする。 ・各科で試験の情報提供を行い、チャレンジを促すとともに、計画的な準備を実施する。
	進路に対応できる学力の定着 【教務部】	・昨年度のアンケートで、本校での授業が進路実現に役立っていると８割の生徒が感じる一方で、６割の生徒が家庭学習の時間が３０分未満である。 ・授業がなるべく課題とならないよう、可能な限り授業変更で対応する。 ・学校設定科目を設置し、生徒の実態や進路希望に対応している。	・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・課題の授業が減り、授業時間が確保されている。 ・生徒の進路希望に応じた科目選択となっている。	・１・２学年が学習支援サービス「Classi」を利用し、自主学習の定着と基礎学力の定着を図る。 ・事前に教員が不在の情報を共有し、授業の入れ替えや売り買いを積極的に行って課題の授業を減らす。 ・次学年の選択科目の説明を丁寧に行い、学年・教科と連携をとりながら、生徒の進路希望とマッチした履修となるよう促す。
	思考力・判断力の向上 【教務部】	・生徒は落ち着いて生活しているが、主体的に授業に取り組んだり、自ら考えて自発的に行動できる生徒が少ない。	・思考力・判断力を育成するため、課題探究的な学習や、対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多くいる。	・各教科で授業公開を行ったり、職員が参加する授業研究会を行い、課題探究的な学習や、対話的な学習活動を授業に取り入れる授業を増やす。 ・校内・校外を問わず、学校行事や科の取り組みを通じて、生徒が活躍できる機会を増やす。
	地域とともにある学校づくり （学校運営協議会） 【管理職】	学校運営協議会では今後の学校の在り方に資する意見や助言が得られた。	学校運営協議会の委員から積極的な意見・助言や感想があり、地域に開かれた活気のある学校になっている。	学校運営協議会の更なる活性化と地域と協働した活動を計画する。会議だけではなく、委員が参加できる取り組みを作る。

様式３

３　地域に愛され、信頼される学校づくり	地域への情報発信 （積極的な広報活動） 【総務部】		・ホームページ更新が行われ、学校行事、各科の学習活動、部活動の大会状況が配信されている。	・学校紹介や学校行事について、ホームページの更新が頻繁に行われている。 ・報道機関へ適宜情報を提供し、報道されることが増加した。	・学校行事について、積極的に総務部から各担当者にホームページやSNSへの掲載を依頼する。また、報道機関にも適宜情報を提供する。 ・ホームページやSNSがさらに充実するように、更新頻度の少ない学習活動・部活動に依頼する。
	地域・産業界との交流 【各学科】	M	自動車整備振興会と連携した自動車整備体験学習や上北条公民館との交流を継続中である。	ホームページやチラシ等あらゆる手段を活用しながら、科みずから積極的に働きかけ、地域・産業界との連携・交流のきっかけを作っていく。	課題研究の中で、障がい者スポーツ普及に向けた器具の製作や小中学校への出前授業等、地域企業や他校種との関りを通して、生徒の協調性やコミュニケーション能力を高めていく。
		E	・鳥取県電気工事業組合との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、片付け回収を行い、地域に貢献した。 ・「電気の技術を活かした福祉活動」について、地区民生委員の方や社会福祉協議会、鳥取県電業協会中部支部と連携しながら、地域に貢献した。	・地元産業界との共同作業や意見交換を通して、交流が図られている。 ・地域の家庭に出向き、奉仕活動をすることで地域の方との交流を図る。 ・社会福協議会主催のボランティアフェスティバルに参加し、地域の方との交流を図る。	・イルミネーション設置について、アイデアの提案等を行う。 ・「電気の技術を生かした福祉活動」の活動前後で民生委員、電業協会、社会福祉協議会、教職員・生徒との意見交換を行い連携をとる。 ・ボランティアフェスティバルでテクニカルボランティアのおもちゃの病院を開催する。
		C	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」ともに地域の方々、企業の理解を得られ、交流・連携が図られている。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」を通して、地域の方々との交流や事業所との連携から、地域産業の理解が深められ郷土愛が育まれている。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の機会を通して、地域の方々と関わろうとする態度を育成していく。
		D	・昨年度は交流事業、社会人講師講師による講習会、企業見学など、コロナ禍以前と同様に実施できた。インフルエンザなどにより実習が急遽中止となることがあった。 ・課題研究(食分野)では、地元企業とのコラボ商品の開発・販売を実施した。 ・ボランティア活動の参加者は微増であった。	・認定こども園や高齢者福祉施設での交流や実習、企業見学を実施し、職業観やコミュニケーション技術の育成をする。 ・課題研究(食分野)において、地元企業と連携した商品開発を行う。 ・ボランティア活動の参加者を増やす。	・交流活動や実習では、職業人としての視点を理解して取り組めるように、指導を行う。また、実施時期を早めに設定し、何かあっても中止ではなく延期して実施できるようにする。 ・実習や交流活動に協力してもらえる地元企業を開拓する。 ・ボランティア活動の意義を伝え、アナウンスを積極的に行う。
４　専門教育の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、チャレンジ精神に富んだ人材の育成 【各学科】	M	授業や実習を通して、検定や資格について話す機会を教員側が作るように心掛けている。	・ジュニアマイスター取得１０名以上 ・卒業までに、機械科生徒全員が技能検定を一つ以上取得する。 ・合格率を高められるような指導体制の確立する。	・資格取得に向けた社会人講師の活用の継続。 ・企業に習い、有資格者一覧表を実習棟に掲示し、生徒の資格取得への意欲を促進する。 ・実習棟入口の掲示板を利用し、資格に関する案内を充実させる。
		E	・学校独自事業において、鳥取県電業協会中部支部に電気工事、電気製図の指導を受け、生徒の知識・技術の向上を図ることができた。 ・鳥取県電業協会中部支部から高校生ものづくりコンテストに向けての技術指導を受けることができなかったが、5名の生徒がものづくり県大会に出場し、２名の生徒が中国大会出場の権利を獲得した。	・生徒の電気工事，電気製図などの知識・技術が向上している。 ・高校生ものづくりコンテスト中国大会に出場し、入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部などの外部の専門家の方々の指導を受ける機会を作り、生徒の知識・技能の向上を図る。
		C	・クラス内で生徒間に学力差があり、一斉授業での指導に工夫を要する。	・資格取得に向けて計画的に努力し、チャレンジ精神を養っている。 ・全商各種検定試験において１級３種目合格を達成した生徒が20人以上いる。	・可能な限り、習熟度別や少人数の授業展開に取り組む。 ・長期休業中や放課後に課外授業を実施し、上位級取得目標の生徒や学力不振生徒に対応していく。
		D	・授業においては、生徒はおおむねまじめに取り組んでいる。しかし、年々技術の習得・定着に時間がかかるようになっていると感じる。 ・個人差はあるが全体的にチャレンジ精神旺盛とは言えない。	・家庭科技術検定に挑戦し、知識と技術の定着とともにチャレンジ精神を育成する。 ・コンテストへの応募やボランティア活動など、外部の活動に参加する。	・各種検定、コンテスト、ボランティア活動への参加を促す。
	学科の枠を超えた取組の実践 （総合選択制） 【各学科】	M	昨年度は、他科からの依頼に対し、課題研究の中で要望に応じて協力した。	電気科と連携した課題研究への取り組みを通し、科の枠を超えた横断的な学習や、それぞれの専門性を活かした活動を行う。また、他科との連携を通し協調性や幅広くお互いの専門性を学びあう機会を増やす。	・それぞれの専門性を理解し、連携を図りながら取り組みを進めていく。 ・他科と共同して、様々な視点で課題研究に取り組んでいく。
		E	・「くらそうや」において「おもちゃの病院」を開き、おもちゃの修理を行うことができた。 ・「くらそうや」への「商品提供」を行うことができた。	・「くらそうや」に電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができている。 ・課題研究において、機械科と共同してものづくりが行えている。	・課題研究「テクニカルボランティア」をとおして「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。また、課題研究の中でもアイデアを出して、商品作成を行う。 ・課題研究において、機械科と共同してものづくり行う。
		C	・課題研究「くらそうや」において、他科から販売商品を提供してもらっている。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」や「アプリケーション演習」で、ビジネスマナーや基礎的なワードやエクセル操作を習得している。	・課題研究「くらそうや」の商品提供学科が、消費者のニーズを反映した製品を作り、「くらそうや」の販売促進につながっている。 ・他科の生徒もビジネスコミュニケーションの知識や技能を習得し、学校生活で実践している。	・課題研究「くらそうや」にて、消費者と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を丁寧に聴き取り、商品提供学科にフィードバックし製品作りに活かしてもらう。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」「アプリケーション演習」の魅力を伝え、履修を促す。
		D	ビジネス科と連携。くらそうやへ商品提供を行っている。	・くらそうやへ商品を提供する。 ・工業科とも連携する。	・くらそうやへの商品提供は、昨年度の売れ行きを振り返り、よりよい商品の企画を行う。 ・情報交換を行い、他学科との連携を検討する。
５ 業務改善の取組	長時間の時間外勤務者の解消 【管理職】		・R5年度における月平均時間外業務時間は、前年度を0.3時間（R4:18.2→R5:18.5）上回った。 ・学校評価アンケート（教職員）によると教職員の時間外勤務削減の意識はあるものの、実行に移していないことが多い。	・年間の時間外業務時間が３６０時間を超えない。 ・職場全体に業務を分担する土壌があり、チームで仕事をこなす意識が浸透している。 ・衛生委員会で職場の安全衛生管理について建設的な意見が交わされている。	・教科や分掌で他の職員の業務量に関心を持ち、職場で支えあえる環境作りを促進する。 ・各自の働きぶりを振り返り、時間外勤務時間を自己チェックしながら、計画的に業務を進めることで、時間外用業務の削減とともに、多忙感の解消を図る。 ・休日の出張申請時に週休日振替を取得させることを徹底する。

Ａ［90%以上］　Ｂ［89～70%］　Ｃ［69～50%］　Ｄ［49～30%］　Ｅ［29%以下］